

自治体 あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号
U R L http://www.jaichi.jp TEL <052> 916-2251
Eメール info@jaichi.jp FAX <052> 916-2308

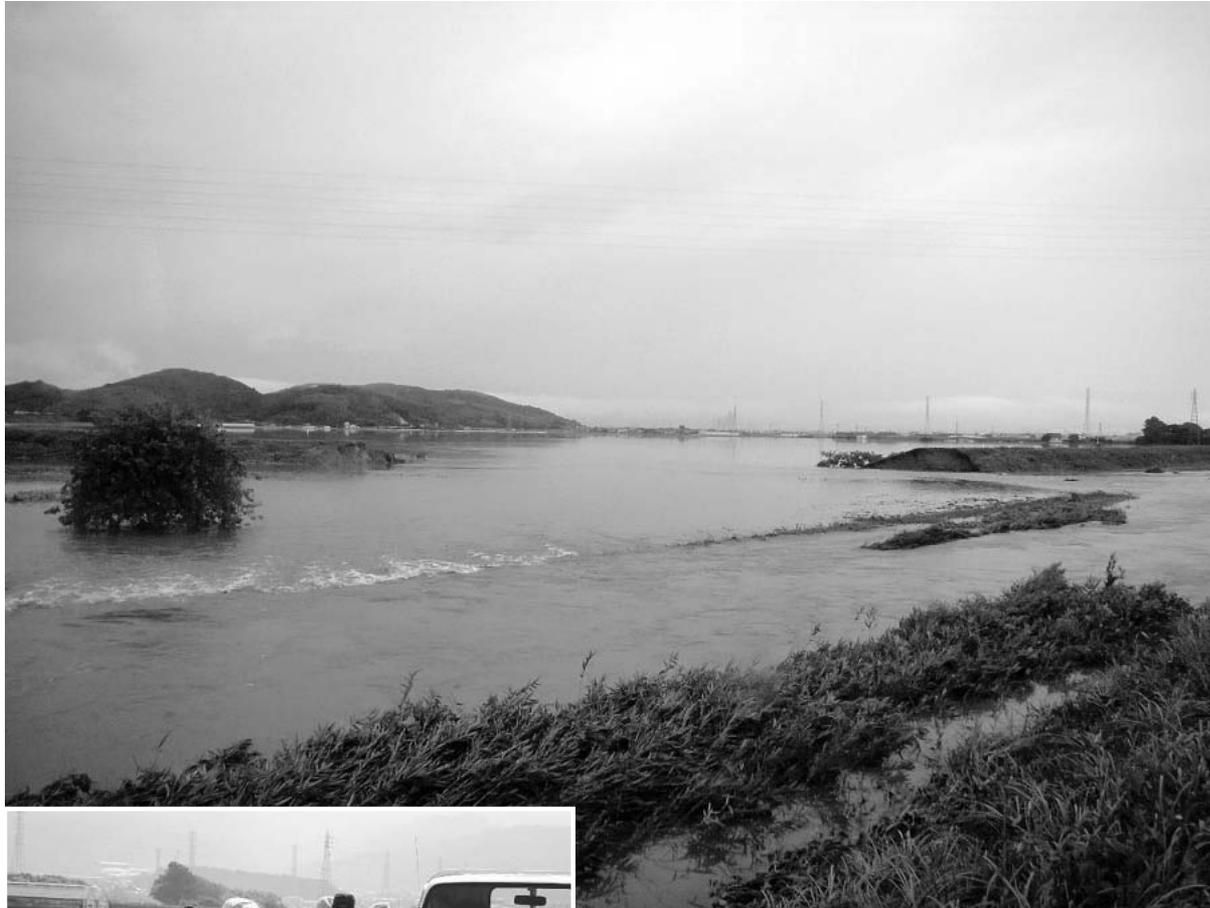
2008.9.10
9.25
No.971

発行責任者 梅野敏基 定価 10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

自治体にはたらく職員の メンタルヘルス研修会

とき 10月24日(金) 午後2時～
ところ 金山「労働会館」

◎どなたでも参加できます。お近くの役員へひと声を



上・40mにわたり決壊した広田川
下・清掃ボランティアをする幸田町職労の仲間

町民の、ありがとう、がはげみ

幸田町 職 労

南から非常に湿った空気が流れ込み、東海地方では、8月28日午前から深夜にかけて記録的大雨となった。幸田町では午前1時～2時の間に110ミリを超え、菱池地区の広田川が40メートルにわたって決壊。その後から被災住民の支援にとりくんだ幸田町職労の仲間たち取材しました。

幸田町役場では、29日0時6分に災害対策本部が設置された。町内では行政防災無線が各戸に配置されており、た

より、川はみるみるうちに増水、大被害が予測されるため、全職員に非常招集指示が午前2時8分に本部から出された。

この時点でも大雨が降り続き、しかも真夜中の招集でもあり、職員の出勤経路の安全は確保されておらず、また、初めての全員招集で、職員からは、「緊張と不安でいっぱいだった」との声も出た。それを裏付けるようにこの日の招集では、出勤途中に職員の車4台が水没。

「自治体職員として、災害での招集は当たり前ですが、やはり残った自分の家族や家のことも心配」とある職員は語る。

招集をうけ、職場は緊張とあわただしさでこたえたが、土木課は、午前1時半に招集。はじめにおこなったことは道路河川の確認、状況調査と監視にあたった。決壊した箇所の確認のために現場へ向かったが、どこ

緊張と不安のなか出勤 2008年8月末豪雨

の道路が冠水しているかわからず、現場へ行くまでにかなりの時間を要した。健康福祉部では、避難対応や避難所の開設にあたった。地元集会所のカギを総代さんに集会所のカギを開けてもらえるように連絡し、必要な備品を準備して、3時すぎに職場を出た。避難所についたとき、14人のかたが避難していた。健康相談もはじまった。

取材した9月4日、土木課では災害箇所の復旧と危険箇所の確認に飛び回っていた。職員が作業をしていると、住民から「いつ通れるようになりますか」と聞かれる。環境課では1度消毒しても、雨が2度3度と降るので新たに消毒してほしいという要望も出ていた。

不安をとりのぞいてあげたい
「被害に遭われた住民の方



現場第一で迅速に対応

「現場の状況や、ゴミがこれだけ出た、どういう対応をしたなど、自分の経験だけでなく、目で見える記録として残すことが重要」と話し、「災害は長引くので、協体制の確立・検討が必要」、「自分たちがこういう時にきちんと対応し、手助けするのが私たちの仕事」、「刈り入れ前に被害にあった農家は大変です。対応していく中で、そこから住民の要望がでてくるのでしっかり対応したい」と話してくれました。

「消毒してもらえないことを知らない住民がたくさんいる。どうみんなに周知していくか。情報を整理しながら漏れないように対応することも大切」と振り返り、「現場の状況や、ゴミがこれだけ出た、どういう対応をしたなど、自分の経験だけでなく、目で見える記録として残すことが重要」と話し、「災害は長引くので、協体制の確立・検討が必要」、「自分たちがこういう時にきちんと対応し、手助けするのが私たちの仕事」、「刈り入れ前に被害にあった農家は大変です。対応していく中で、そこから住民の要望がでてくるので、しっかり対応したい」と話してくれました。

